

校長室から

平成30年5月15日

「努力しても報われない」から

「努力しないと報われない」へ

平成19年 夏の甲子園優勝校 佐賀北高校の奇跡

5月の後半は、全学年で校外での体験学習(校外学習、職場体験学習、修学旅行)が実施されます。それぞれ目標を持って、皆さんと先生方で事前学習を行っていると思います。そして、部活動も運動部は市中総体に向けて、文化部は文化発表会や各コンクールに向けて、真剣さが伝わってきます。

ところで、皆さんが幼年期の2007年(平成19年)に、夏の高校野球甲子園大会で、佐賀県代表として、県立校の佐賀北高校が出場し、優勝しました。当時は、佐賀北の奇跡と言われました。

この年、7年ぶりに県大会を勝ち抜き、2度目の甲子園大会の出場を勝ち取った学校です。しかし、前年度は県大会の初戦で敗退していて、前評判は決して高くありませんでした。ところが甲子園で試合を経験しながら、どんどん強くなっていきました。2回戦では、三重県代表の宇治山田商業と対戦。延長戦の末に引き分けて、再試合となり、決勝戦では、対戦チームよりも1試合多い7試合目の試合となっていました。選手の疲労も大きかったと思います。

決勝戦では、広島県代表の広陵高校と対戦。広陵高校と言えば、甲子園の常連校。春の大会で何度か優勝も経験している学校で、この年は特に、現在広島東洋カープで活躍している野村投手がエースとして大活躍し、評判通りの強さで勝ち上がってきていました。しかも決勝戦は、8回表まで4対0で、広陵高校がリードしていました。しかし、8回の裏、この試合、たった一度のチャンスを逃さず、逆転満塁ホームラン等で大量5点を奪い、大逆転勝利となりました。スコアブックを見ると、8回以外は、ほとんどチャンスらしいチャンスもありませんでした。特に6～7回は、6つのアウトのうち、5つが三振でした。この日、たった一度だけ巡ってきたチャンスでした。

翌日からマスコミ等で大きく取り上げられた彼らの中で、一人の選手がこのような事を話していた事を覚えています。「前年からいつも試合をすると、大差で負けてばかりいた。練習は厳しかったが、結果が出ないのが辛くて、何度も辞めようと思った。でも県大会直前の強豪校との練習試合で、大接戦を経験した。結果的には負けてしまったが、やればできるんだと思った。その時、努力しても報われないと卑屈になるより、努力しないと報われないんだという事が分かった。そこから自分達は強くなったと思う。」

皆さんも、これから中総体や発表会、コンクール本番を迎えます。地道な努力は、やがて実るときがきます。結果として実る場合もあれば、人の成長として実ることもあるでしょう。試合に勝つことだけが努力のすべてではなく、どのように向き合ったか、どのように困難を克服しようとしたか、そのプロセスが大切ですね。

「努力しても報われない」と考えるより「努力しないと報われない」

とてもすばらしい表現です。きっと、そのプロセスを経験した者にしか語れない言葉だと思います。皆さんの生活に参考になるかもしれませんね。